

令和8年度病害虫発生予察情報・注意報第1号
 (セイヨウナシ褐色斑点病の多発生に注意)

令和8年6月30日
 新潟県病害虫防除所

病害虫名	セイヨウナシ褐色斑点病
1 対象作物	西洋なし
2 発生地域	県内全域
3 発生程度	平年比多い

4 注意報の根拠

- (1) セイヨウナシ褐色斑点病は、令和6年、7年に多発生し、伝染源量が多いと推測される(図1)。
- (2) 県予察調査では5月後半から西洋なし(品種:ル レクチエ)でセイヨウナシ褐色斑点病の発病葉が確認されている。
- (3) 6月後半の県予察調査では、5ほ場中4ほ場(新潟地域1ほ場、中越地域3ほ場)で発病葉が確認され、平均発病葉率は3.15%で平年比高い(平年値:1.10%、令和6年:0.55%、令和7年:4.61%)(図2)。
- (4) 本格的な梅雨時期を迎え、雨水・雨滴や高湿度での伝染拡大、降雨前防除の未実施や散布間隔の開きなどが懸念される。

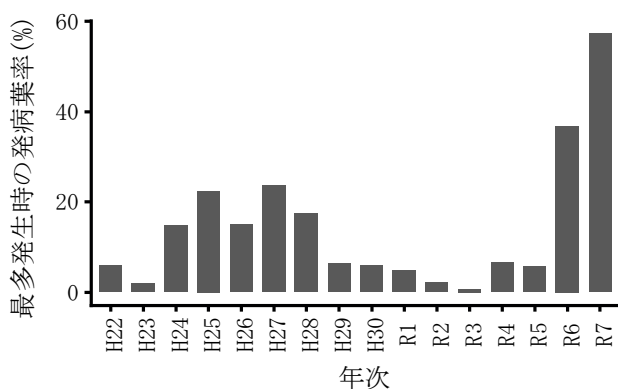


図1 セイヨウナシ褐色斑点病の発病葉率の年次間差
 注 県予察ほ場4~5地点平均値

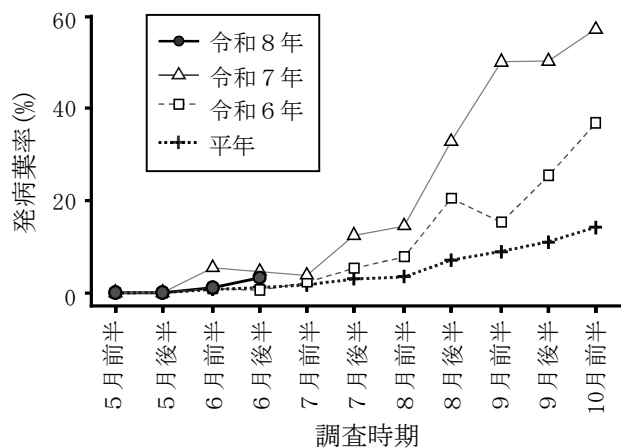


図2 セイヨウナシ褐色斑点病の発病葉率の推移
 注 県予察ほ場4~5地点平均値

5 防除上の注意事項

- (1) 袋掛けが遅れている園地では、できるだけ早急に袋掛けを終わらせる。
- (2) 発病葉・果実等は、摘み取って園外に持ち出して埋めるなど、耕種的防除を実施する。
- (3) 地域の防除暦に従って、他病害虫を含めて的確に薬剤散布等を実施する。また、薬剤感受性を低下させないため、同一分類の殺菌剤を連用しない。
- (4) 降雨が続くと予想される場合は、散布間隔が空きすぎないように、降雨前の薬剤散布を実施する。
- (5) この時期以降の薬剤散布にあたっては、事前に新梢管理を行うとともに、葉にまんべんなく薬剤を付着させるよう薬量を調整する。また不要な新梢伸長は感染しやすい新葉を増やすことから、ほうき枝が多発生するような樹への追肥は避ける。
- (6) 今後の気象経過によっては、発生の拡大が懸念されるため、病斑の早期発見及び園地の発生状況等の把握に努める。



写真 発病葉(左)と発病果(右)

注 線で囲った部分が病斑

画像提供：新潟県農林水産部経営普及課